

フリースタイルスキーモーグル競技におけるビンディング解放値の設定状況とケガの経験
について =全日本スキー選手権大会 モーグル競技での実地調査=

千曲中央病院 望月 一成 吉松 俊一 吉松 俊紀

目的

適切なビンディング解放値は、フリースタイルスキーのモーグル競技においては確立した基準が見当たらない。今回我々は、モーグル全日本選手権におけるビンディング解放値設定状況と過去のケガの経験について実地調査を行ない、若干の知見を得たので、報告する。

対象と方法

2008年3月22日行なわれた第28回全日本スキー選手権大会シングル出場の中で協力の得られた男子62名女子22名を対象とした。滑走直後の選手のビンディングについて、メーカー、解放強度範囲、設定解放値、さらにケガについてゴールエリアで、調べた。

結果

メーカーはルックが6割を占め、解放強度範囲は、様々であった。設定解放値は、男子が、11から13までで2/3、女子は10と12で半分占めた。解放しないことによるケガは対象選手の多数を占めていた。

考察

今後、適切な設定値を探るために、ウォータージャンプでの調査や意識調査等が必要と思われる。